第6節　5日目：8月3日（日）：生山～新見　晴れ

2025年8月3日（日）晴れ、伯備線などの旅の5日目は、伯備線の生山駅から新見駅までの営業キロ31.0㎞に挑戦する。秘境駅布原駅の踏破に負荷を要する可能性を勘案し、新見発6時59分を2本早い始発5時46分に切り替える。加えて、涼しい内に少しでも多く歩く環境にするために決断した。営業キロは昨日に比べ、2倍位あるが、重たいリュックを背負っての歩きではない。また、新見駅が目標のため、列車での移動もないので、時間の制約から回避できた。ただし、備中神代～布原～新見が山越えとなるため、日没前（少なくとも18時前）には山を下った新見駅界隈に到着したかった。結果、大正解であった。朝食は昨晩買ったおにぎりで対応する。日曜日であり、始発のため、2両編成の車両は私のみであったと思われる。私が下車する生山で一人高校生が乗ってきたので、少なくとも一人は確保となった。このような場面は、2015年6月宗谷本線で音威子府（おといねっぷ）から南稚内に移動する際にも遭遇した。鉄道を愛する私にとっては非常に淋しい思いであった。

※ホテルから新見駅へ

※２両編成の貸し切り状態で生山駅へ移動

※生山駅

※生山駅

各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

生山（しょうやま、6;36)～上石見（かみいわみ、8:45)～新郷(にいざと、9:55)～足立(あしだち、11;41)～備中神代(13:32)～布原(14:43)～新見(16:08)

①生山駅を種々のアングルで撮影後、営業キロ 8.7 ㎞ある上石見駅を目指す。生山駅で沢山の燕に遭遇する。6 時 47 分より、119 歩ある生山橋を渡る。6 時 55 分より、赤い通天橋を渡る。6 時 58 分、JR 線を潜り鉄道の右側となる。7 時 22 分、今度は JR 線を跨ぎ鉄道の左側となる。7 時 28 分、原公会堂前バス停前（日南町バス）を通過する。7 時 30 分、只今の気温は 21℃とあった。7 時 45 分、新見 30 ㎞、上石見 5㎞と記した標識前を通過する。7 時 47 分、米子方面に向かう列車と対面する。7 時 50 分、坂上る。8 時 7 分、野菜を軸に販売している”はなみずき青空市場”前を通過。10 人位の人がいた。8 時 15 分、ビニールハウスが広がっていた。数十年前、両親が健在な頃の苺栽培を思い出ししんみりする。上石見駅には 8 時 45 分にやっと到着する。駅前には「井上泰ゆかり・にちなん高原駅」の標識があった。併せて、生山駅と同様創業以来百年の看板もあった。この駅界隈には民家が広がっていた。この駅界隈で、近隣の方から私の帽子を見て、エールがある。「どこからやってきたのですか」と。「今朝、生山から歩いています。新見に向けて歩いています。伯備線踏破が今回の旅の目的です。これまで鉄道つたい歩きで 1 万 7 千キロを突破しました。詳細はチラシに記載しています。スマホをお持ちであれば閲覧できます」と言って、早速カッシーチラシを手渡する。「私は持っていませんが、主人が持っています。あとで確認します。ありがとうございます」と。お礼を言ってこの場を去る。

※上石見駅への路その１

※上石見駅への路その２

※上石見駅

※上石見駅

②9 時 13 分、峠に差し掛かる辺りで、鳥取県日南町（文学のふるさと）から岡山県新見市となる。9 時 41 分、右手に JR 線の和忠川橋梁を目にする。9 時 55 分、新郷駅に到着する。この界隈には数軒の民家があった。上石見駅に比べ粗末な駅舎であった。

※新郷駅への路

※新郷駅

※新郷駅をあとに

③10 時、森から蝉の声を聞き安堵する。境線では全く蝉の鳴き声を聞かず心配（異常気温よる環境変化）していた。10 時 15 分、JR 線を潜り鉄道の右側となる。10 時 22 分、左側となる。10 時 37 分、右側となる。この界隈の右手に第２西川橋梁があった。10 時 58 分、七石橋を渡る。11 時 1 分、木村下バス停前（新見市営バス）を通過する。11 時 17 分、第 5 西川橋梁を目にする。11 時 5 お分、第 7 西川橋梁を目にす

る。11 時 25 分、JR 線下を潜り、鉄道の右側となる。11 時 28 分、左側となる。11 碑 30 分、工場が立ち並ぶ足立石灰前を通過。只今の気温は 34℃とあった。川を渡った先に足立駅（11 時 41 分）があった。この駅界隈には民家はなかった。

※足立駅への路

※足立駅

④11 時 51 分、第 10 西川橋梁から連結した JR 線下を潜り、鉄道の右側となる。鉄道はトンネルへ。11 時 52 分、第 12 西川橋梁関連の鉄道下を潜り、鉄道の右側となる。12 時 2 分、第 13 西川橋梁関連の鉄道下を潜り、鉄道の左側となる。12 時 6 分、蝉の鳴き声で元気頂く。12 時 8 分、第 14 西川橋梁関連の鉄道下を潜り、鉄道の右側となる。12 時 18 分、第 15 西川橋梁関連の鉄道下を潜り、鉄道の左側となる。12 時 46 分、JR 線を跨ぎ、鉄道の右側となる。途中道の駅があり、からからになった喉を潤してくれる。道の駅界隈に備中神代駅があると思ったがさにあらず。迷子になりそうであったので、売店に入り、備中神代駅への道筋をお伺いする。「この通りを暫く真っ直ぐ歩き、左に曲がる道筋を歩けば行けます。ところで、何処からやって来たのですか。暑い中大変ですね」と。これに対し、「伯備線の踏破にやって来ました。今朝、生山から歩いて来ました。秘境駅布原駅を経由して新見駅を目指しています」と応対。「大変ですね。暑い中頑張って下さい」と激励される。お礼を言ってこの場を去る。道の駅から左折する交差点までは意外に遠かった。やっと左折する交差点に到着する。13 時 26 分、神代西踏切を横切り、鉄道の左側となる。橋を渡り、やっと備中神代駅には 13 時 32 分に到着する。前方には山が広がっていた。この駅から芸備線（備中神代～三次：営業キロ 50.3 ㎞）が繋がっていた。“どこまでも続く鉄道よ”であった。いつかこの鉄道も踏破したいとまたまた夢膨らむ。

※道の駅までの路

※備中神代駅界隈

※備中神代駅

※備中神代駅

⑤森の中を歩く。車が通れる 3m 位幅の道筋であった。13 時 36 分、神代東踏切を横切り鉄道の右側となる。13 時 43 分、黒滝踏切を横切り、鉄道の左側になろうとしたところ、岡山方面に向かう特急が通過して行く。13 時 53 分より、万歩計で 60 歩あるトンネルを通過する。ここからくねくねした上り坂を歩く。14 時 6 分、山間下に線路を見つける。14 時 14 分、桧林が続く。1 台の自家用車が私を追い越して行く。この車の若いカップルとは、これから 3 度お会いする。14 時 15 分、竹林となる。14 時 22 分、やっと布原駅に繋がる交差点に到達する。交差点先には先程見かけた車が停車していた。この交差点から下りとなる。少し歩いた先で先程の若いカップルと対面する。道筋を確認のため、少し下った様子であった。「この道を下れば、布原駅に到着できますか」と質問する。「行けます」との回答がある。坂道を 10 分位下る。民家が数軒あった。14 時 36 分より、71 歩ある橋を渡る。橋を渡った先でも民家があった。鉄道に沿って戻った先に布原駅（14 時 43 分）があった。岡山方面に向けて特急”やくも”が通過して行く。駅には駅ノートを収納する 7～8 ㎝高さの頑丈な鉄のボックスがあった。このボックスを開け、メモしたカッシーチラシをメモ帳の上に挿入する。蓋は照り返しで火傷しそうな位熱かった。布原駅を去ろうとしたところ、先程の若いカップルの 2 度の対面となる。折角の機会であったので、カッシーチラシを手渡し PR させて頂く。今度は橋を渡り、交差点まで上り坂を歩く。途中、3 度目の若いカップルに出会う。車を減速し、「ありがとうございました」のお礼がある。非常に温もりを感じた。交差点には 15 時 5 分に戻る。

※トンネルまでの路

※山間から線路が見える

※交差点への路

※橋を渡り布原駅へ

※布原駅

※布原駅

⑥ここからは新見駅を目指す行程となる。くねくねした山道を下る。15 時 29 分、バイクが私を追い越して行く。15 時 30 分、自家用車と軽トラックが追い越して行く。少し歩いた先で民家が広がる。また、街並みが見えて来る。15 時 41 分、JR 線下を潜り、鉄道の左側となる。その先に自動販売機を見つけ、カラカラになった喉を潤す。鉄道の左側を淡々の歩いた先に新見駅（16 時 8 分）があった。万歩計は 66.668 歩であった。いつの間にか、伯備線に沿って流れている川は、日野川から高梁川となっていた。ホテルには 16 時 27 分到着。本日は休肝日とし、汗を流した後、コンビニで夕食の食材を購入。夕食後バタンキュウとなる。充実した一日であった。

※交差点に戻り、新見駅を目指す

※山を下る

※線路下を潜り淡々と歩いた先に新見駅があった

第７節　６日目：８月４日（月）：備中高梁～新見　晴れ

2025 年８月４日（月）晴れ、伯備線などの旅の６日目は、伯備線の備中高梁駅から新見駅までの営業キロ 30.4 ㎞に挑戦する。当初は、木野山～新見までの 25.6 ㎞を予定していたが、九ヶ条からなる”こだわり鉄道つたい歩き”の第５条（先憂後楽の考え方）に基づき、木野山～備中高梁までの営業キロ 4.8 ㎞を加える。この前倒しにより、８月６日に予定していた総社～倉敷までの営業キロ 10.7 ㎞を明日８月５日（火）に繰り入れることが可能となった。ただし、重いリュックを背負ってかつ今回の旅で最長の営業キロ 34.0 ㎞を余儀なくされるが。なお。このプランは、本日の歩きで思いつく。それ故、当初予定した新見発７時 23 分発を６時８分に早めて臨む。昨日コンビニで買ったおにぎりを朝食とする。各駅停車に乗り、伯備線の新見～伯耆大山に比べ、新見～倉敷の方が乗客数においては、数倍利用度が高いと痛感。車両編成も２両から４両編成となる。

※さあ６日目に挑戦だ

※備中高梁駅

本日の各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

備中高梁(6:53)～木野山(8:21)～備中川面(かわも、9:32)～方谷(ほうこく、11;51)～井倉(14:36)～石蟹（いしが、16:37）～新見(18:12)

①備中高梁駅を種々のアングルから撮影して、木野山駅を目指す。6 時 58 分現在の温度は 24℃とあった。駅に到着するや否や、蝉の鳴き声を聞き、真夏のウォーキングを実感する。今日は重いリュックを背負っていないため、身体的には楽であった。7 時 7 分、高橋中央公園前を通過。7 時 10 分、有終館跡で 4 本松を鑑賞する。7 時 20 分、方谷楽舎高校前を通過。国道 180 号線に合流する。7 時 22 分、新見 36 ㎞、岡山 48 ㎞と記した標識前を通過する。7 時 24 分、高梁消防本部、高橋消防署前を通過。7 時 49 分、コンビニ（高梁津川町店）に立ち寄り、塩飴を購入する。8 時 10 分より、万歩計で 189 歩ある新幡見橋を渡る。右手には有漢川橋梁があった。8 時 17 分、米子 103 ㎞、新見 30 ㎞と記した標識があった。木野山駅には 8 時 21 分に到着。駅通路を経由した先にあった。

※４本松までの路

※コンビニへの路

※木野山駅への路

※木野山下駅

②8 時 26 分、踏切を横切り国道 180 号線に戻る。9 時 2 分より、万歩計で 277 歩ある橋（高梁川）を渡る。JR 線の鉄橋は第 1 高梁川橋梁とあった。9 時 19 分より、191 歩

ある秋田橋を渡り、民家が広がる通りに出る。9 時 25 分、備中寺山城跡前を通過。9 時 27 分、高梁北中学校前を通過。備中川面駅には 9 時 32 分に到着する。この駅から傘をさし、熱中症対策の一助とする。この駅で駅備え付けノートにメモする。

※備中川面駅への路

※備中川面駅

③備中川面駅から方谷駅まで国道 180 号線、伯備線そして高梁川が複雑に絡み、神経を費やす。誤って進行すると行き止まりとなり、高梁川を渡れない恐れがあるからだ。ネットで確認し道なりに進んでも高梁川を渡れると判断し直進する。ところが、伯備線の踏切を渡る手前で、先程バイクで通り過ぎたお巡りさんと再度対面。念のため、「このまま進んでも方谷駅に行けますか」と確認する。「先日の大雨で土砂崩れがあり、通行止めです。車だけではなく歩行者もダメです。私は写真撮影でやって来たと思っていました。方谷駅へは秋田橋まで引き換えすしかありません」との回答を頂く。確かに、秋田橋を渡り暫く歩いた先で「通行禁止」の掲示板はあったが、これまでの歩きでは、車は NG であったが、歩行は用心深く歩けば通行できた。最近、鉄道沿線を歩いた場合このようなケースが多くなって来ているような気がする。やむを得ず、再度、備中川面駅経由で秋田橋まで引き返す。この橋を渡り、国道に到着時刻は 10 時 37 分であった。通行止めが発覚した地点から 42 分もロスタイムとなる。

※再度備中川面駅通過

④10 時 48 分、新見 24km、米子 97 ㎞と記した標識前を通過。その先で 51 歩ある赤い河戸橋を渡る。11 時 5 分、御鋒神社前で本日の安全を祈願する。11 時 47 分より 167 歩ある中井橋を渡る。この橋を渡ると民家が広がっていた。200m 位戻った先に方谷駅（11 時 51 分）があった。駅前には自動販売機はあったが、旧千円札は OK であったが、新千円殺は NG であった。生憎小銭は 100 円未満、千円札は新札しか持ち合わせがなく、ペットボトルの補給ができず。僅かになったペッボトルを活用しながらの道筋を余儀なくされる。少なくとも歩く場合、旧千円持参もしくは 100 円玉を沢山持って歩く必要性をモ骨身に感じた。

※赤い橋への路

※中井橋への路

※方谷駅

※方谷駅

⑤12 時 6 分より、再度、中井橋を渡り、国道 180 号線に戻る。12 時 22 分、高梁市から新見市となる。その先で JR 線を跨ぎ、鉄道の右側となる。13 時 5 分、車から降りて来たドライバーから心配そうな顔をして声がかかる。「大丈夫ですか。何処迄歩くのですか。少し前すれ違ったところで確認したところ、しっかりした足取りでしたので安堵しましたが、念のため止まりました」と。これに対し、「大丈夫です。新見を目指して歩いています。先程立ち寄った方谷駅前で自動販売機はありましたが、新千円札しか持ち合わせがなく、水分補給はできませんでした。この界隈に自動販売機はありませんか」と応答する。「安心しました。自動販売機の箇所は分かりませんが、少し歩けば、あるでしょう。暑いので気をつけて歩いて下さい」と。「ありがとうご

ざいます」と。この場を去る際、この親切な方にも、「私は全国鉄道つたい歩きをしています。神奈川から数日前にやって来ました」と言って、カッシーチラシを手渡しPR させて頂く。

※風光明媚な箇所までの路

※ドライバーと対面した界隈

※自動販売機までの路

13 時 25 分、自動販売機を見つけ、水分補給にありつける。13 時 38 分より、最初の洞門を通過する。この界隈、鉄橋、渓谷、高梁川のコントラストが見事であった。13 時 52 分より、132 歩ある洞門を通過する。14 時、曇りマークとなり日差し和らぐ。14 時 15 分、谷合踏切を横切り鉄道の右側となる。ここから井倉駅は遠かった。橋を渡る。14 時 30 分、井倉洞前を通過。この洞窟に立ち寄ろうと思ったが、時間の関係でパスする。井倉踏切を横切り、鉄道の左側となる。暫く歩いた先に井倉駅（14 時 36 分）があった。駅前の看板には、井倉洞などの PR があった。

※井倉洞への路

※井倉洞への路

※井倉駅界隈、井倉駅

※井倉駅

⑥暫く井倉街並みを歩く。14 時 58 分、国道 180 号線に合流する。15 時 10 分、トンネルに突入する JR 線を跨ぎ、鉄道の右側となる。15 時 28 分、JR 線下を潜り鉄道の左側となる。15 時 51 分、JR 線下を潜り鉄道の右側となる。15 時 57 分より、沢山の洞門がある。直線の鉄道と蛇行した川に沿った道路が大きく乖離しており、洞門を幾つも潜るが、石蟹駅への路は遠かった。16 時 27 分、JR 線下を潜り、鉄道の左側となる。石蟹駅には 16 時 37 分に到着。霧雨のような冷気があり、今回の旅で初めて快適感を感じる。この界隈は賑やかであった。営業キロ 4.5 ㎞に対し、所要時間 2 時間要す。このデータからも相当の迂回があったと判断できる。

※石蟹駅への路

※石蟹駅

⑦16 時 50 分、霧雨模様の天気から晴れマークとなる石蟹の街並みを歩く。16 時 57 分より、214 歩ある美郷大橋を渡る。ここから暫く山間となる。17 時 20 分、只今の温度は 31℃とあった。17 時 22 分、JR 線を跨ぎ鉄道の右側となる。ここから新見の街並み

が広がる。17 時 36 分、新見警察署前を通過。17 時 37 分、新見市役所前を通過。高梁川を渡り、伯備線に沿ったくねくねした路地を歩く。この界隈複雑な道筋が続く。姫新線（非電化単線）の上市踏切を横切る場面にも遭遇する。やっと目印の NTT タワーが見えて安堵する。高梁川に沿って歩いた先に新見駅（18 時 12 分）があった。万歩計は 73,369 歩となっていた。やはり、営業キロ 30 ㎞超えは厳しいものがあると痛感。このデータから判断し、40 ㎞は歩いただろう。朝ダイヤを 1 時間 15 分早めて正解であった。歩きには想定外の出来事が起こるので、早め早めの行動が大事であることを改めて痛感する。

※美郷大橋への路

※新見市内への路

※新見駅への路

※新見駅への路

※新見駅

⑧ホテルには 18 時 20 分に到着。汗を探した後、ホテルにあるレストランで夕食とする。大瓶のスーパードライは最高だった。部屋に戻るや否やバタンキュウとなる。充実した一日であった。

※ホテルに戻り祝杯

第８節　７日目：８月５日（火）　備中高梁～倉敷　晴れ

2025 年８月５日（火）晴れ、伯備線などの旅の７日目は、伯備線の備中高梁駅から倉敷駅までの営業キロ 34.0 ㎞に挑戦する。営業キロ 34 ㎞超えは、約１年前の 2024 年８月７日（水）以来である。この時は、重いリユックを背負わず、予讃線系列の内子線（大洲～向井原：34.1 ㎞）を踏破した。一方、重いリュックを背負って、2025 年６月 22 日（土）は、高山本線仕上げで、猪谷～富山（36.6 ㎞）を歩いた。本日の旅もこれらに準ずるもので、仕上げの難しさを痛感した。しかしながら、このような体験から、絶対に達成できると確信して臨んだ。安全を見て、新見発４時 55 分の始発で臨む。寝坊しては行けないという重圧から昨夜は枕を高くしては就寝できなかった。２時過ぎに目が覚め、チェックアウトのための荷物の整理をする。４時半頃ホテルを出る。辺りはまだ暗闇だった。総社までは何とか順調に歩けたが、総社以降は暑さのため、適宜休みを取りながらの歩きとなる。

※新見駅始発で備中高梁駅へ

※備中高梁駅

本日の各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

備中高梁(5:37)～備中広瀬(6:58)～美袋(みなぎ、8:57)～日羽(10:06)～豪渓(11:15)～総社(13:02)～清音（きよね、14:58)～倉敷(17:13)

①備中高梁駅を種々のアングルで撮影後、備中広瀬駅を目指す。5 時 47 分、幹線道路に合流する。5 時 52 分、高速道路下を潜る。5 時 58 分、国道 180 号線に合流する。6 時 3 分、落合バス停前（備北バス）を通過する。6 時 7 分、岡山 44 ㎞、総社 ㎞ と記した標識前を通過。6 時 23 分、蝉の鳴き声を聞き安堵する。国道 180 号線から備中広瀬駅が見えるが近くに踏切や通路らしきものがない。暫く右往左往する。結果、200m 位戻り、6 時 53 分、柳井下踏切を横切り、鉄道の左側となる。備中広瀬駅には 6 時 58 分に到着する。5 分位ロスタイムとなる。

※備中広瀬駅への路

※備中広瀬駅

※備中広瀬駅

②7 時 40 分、サングラスをかけ、濡れタオルを帽子下に着用する。同時に耳にウォークマンを。ウォークマンは、8 月 2 日（土）以来である。7 時 44 分、犬からの激励がある。8 時 16 分、JR 線はトンネルに突入、この界隈の地名は、総社市種井とあった。8 時 22 分より、243 歩ある美袋洞門を通過する。ここから岡山まで 36 ㎞とあった。この界隈で、暑さ対策として雨傘をさす。美袋駅には 8 時 57 分に到着する。

※美袋駅への路

※美袋駅

③9 時 8 分、美袋湯便局があった。9 時 13 分、国道に合流する。日羽駅の標識を見て、道なりに歩いた先に日羽駅（10 時 6 分）がある。リユックによる左肩の痛みをいつの間にか解消されていた。

※日羽駅への路

※日羽駅への路

※日羽駅

④ここから国道 180 号に合流はややこしい道筋であった。右往左往する。ネットで検索し、JR 線下を潜り鉄道の左側となり大きく迂回し、再度鉄道下を潜り、右側となり国道に合流する行程を選択する。10 時 22 分、JR 線下を潜る右側となり、10 時 25 分、国道 180 号線に合流する。10 時 41 分、日羽谷川という地名を通過。10 時 58 分、

山ノ端踏切を横切り、鉄道の右側となる。そして、民家が広がる路地を歩く。しかし、ここから豪渓駅は遠かった。やっと。11 時 15 分、豪渓駅に到着する。

※豪渓駅への路

※豪渓駅

⑤11 時 31 分、宍粟（しわさ）踏切を横切り、鉄道の右側となる。11 時 37 分より、104 歩ある橋を渡る。11 時 48 分より、万歩計で 123 歩ある洞門を通過する。この洞門を皮切りに 4 つ位洞門が続く。右手には高梁川が流れていた。12 時 2 分、山間を抜け、平野部分となる。12 時 9 分、岡山 24km、総社 3 ㎞と記した標識前を通過。ここから総社駅は近いと思ったが、さにあらず。遠かった。歩いても歩いても到着できず。路地に入り、複雑なくねくねした道筋となる。何人かのお世話になり、やっと総社駅に 13 時 2 分到着できる。重いリユックと暑さで疲れが一気に出る。井原鉄道の待合室で水分補給をしながら、13 時 40 分まで骨休みする。38 分間の休憩で多少元気を取り戻す。この休憩時間を利用して、清音、倉敷方面の道筋を確認する。しかし、少なくとも清音までは、鉄道に沿った道筋はなく、くねくねした道筋を歩くことを余儀なくされる。

※総社駅への路

※総社駅

※総社駅

⑥総社駅の東口に出て、駅舎写真を撮影後、暫く日影が全くない、鉄道に沿った左側を歩く。13 時 38 分、三輪一踏切を横切り鉄道の右側となる。適宜日陰で休憩しながら、くねくねした道筋を歩き、あとは直進すれば清音駅に到着できる道筋に出る。清音駅にはやっと 14 時 58 分できる。営業キロ 3.4 ㎞に 78 分も要す。

※清音駅への路

※清音駅

⑦清音駅から倉敷駅は遠かった。安全を考え、高梁川の土手沿いを走る県道 24 号線をキープして歩いた。ナビで検索したところ、日陰が一杯ある伯備線に沿った小道を歩くべきであった。この選択は大失敗。県道から小径に繋がる道筋は途中 1 箇所あったが、ナビを調べるだけの余力がなく、依然県道 24 号線を歩き続ける。今回の旅で唯一の反省点であった。16 時 7 分、新幹線下を潜る。ここから倉敷駅への路は遠かった。16 時 17 分、総社市から倉敷市となる。16 時 25 分、日陰で小休憩する。16 時 36 分、西津県道踏切を横切り鉄道の右側となる。この界隈の自動販売機で水分補給する。ここから歩いても歩いても倉敷駅は遠かった。やっと 17 時 13 分、倉敷駅に辿り着く。これで、当初目標であった伯備線（伯耆大山～倉敷：営業キロ 138.4 ㎞）と境線（境港～米子：17.9 ㎞）を活動日数 6 日目を要して達成できる。非常に本日は疲れたが、天や神のご加護や沿道の方、そして各位から元気を頂き、無事達成できる。達成感に浸る瞬間であった。

※ここまで脇道あり

※倉敷への路

※倉敷駅（伯備線踏破！！）

万歩計は 70,804 歩となっていた。本日の歩きを通じ、2015 年 5 月、東北本線の小牛田から塩釜｛29.8 ㎞）を踏破した苦い歩き体験を思い出す。あの時は、腰が痛くなり、リュックを背負うことができなくなり、仙台駅の駅員さんのお世話になり、車椅子でタクシー乗り場まで運んでもらい、今朝チェックアウトした東横インでお世話になった出来事を。早いものであれから 10 年が経過する。それに比べれば今回の歩きは軽傷であった。

⑧倉敷駅からはタクシーでホテルへ。汗を流したあと、ホテル前のステーキ―”どん”で英気を養う。本日頑張ったお陰で明日は倉敷を観光できる余裕ができた。そう

いう意味では価値ある一日であった。明日が楽しみである。ここでも、九ヶ条からなる”こだわり鉄道つたい歩き”の第５条（先憂後楽の考え方）を発揮した一日となった。

※ステーキ―”どん”で祝杯！！